

循環型社会を支える 循環経済

2022年12月12日

3R活動推進フォーラム会長・3R推進協議会会長

東海大学副学長・政治経済学部経済学科教授

細田 衛士

「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない。」
(新約聖書、マタイによる福音書7章13～14節)

循環経済にいたる道も狭く、狭い門から入ってはじめてたどり着くことができる。

本セミナーの目的：持続可能な形態で新たな試みや取り組みを率先して行っている企業、自治体、廃棄物・リサイクル関連団体等の事例・研究発表を通して、3R・循環経済に関する先進事例の情報発信および相互の交流の場を作り、循環型社会の一層の拡大浸透を図ることを目的とする。

議論から行動へ

- EUから『**循環経済パッケージ**』が発表されてから7年の歳月が流れた。
- EU各国でそれほど**循環経済ビジネス**が盛んになった様子はない。
- また循環経済になったからと言って、EUが主張するように**経済成長率**が上がったわけでもない。
- 循環経済や循環型社会について**バラ色の絵**を描いても仕方がない。
- **狭き門**を通過して着実に歩みを進めるしか方法はない。

日本での実践

- EUと異なり、日本は**概念設定をするのは苦手**だが、実際に**行動するのは得意**。
- 最近、**循環経済に向けてのビジネスの動きは加速**しており、新しい方向性が見えてきている。
- しかしながら、残念なことに、こうした個々の動きがマクロ経済全体でつながっておらず、**シナジー効果が発揮**されていない。
- 今こそ、**個々の実践内容**を広く世に知らしめ、**知識と知恵を交換**することによって、個々の動きがつながり、**シナジー効果を発揮**すべき。

進む循環経済化：事例 1

- 例えばこれまであまり進んでいなかった**使用済衣料品の循環利用**。
- **京都信用金庫**が中心となり、**ヒューマンフォーラム**と共同で使用済衣料品を回収し、**再使用可能なものを地域で販売**する。
- このプロジェクトに参加するのは**6団体**。
- 広く、地域住民・企業にも参画を促すことによって、**地域のソーシャルマインドを醸成**したいという。

(出典：『資源新報』2022年9月12日)

進む循環経済化：事例 2

- **ゲンゼがプラスチックフィルム製造時に発生するプラスチックくずをハンガーにリサイクルする取り組みを発表。**
- **同社が自製品のラベルに利用しているオレフィン系の収縮フィルムの製造くずをハンガーに再生。**
- **将来は、使用済ラベルを回収し、ラベルtoラベルのリサイクルの実現を目指すという。**

(出典：『資源新報』2022年9月12日)

進む循環経済化：事例3

- **カルビーは東和ケミカル**と協働で、**アルミ蒸着フィルム**を再資源化の取り組みを開始。
- **品質保持**のために、アルミ蒸着フィルムは**複数材質**を組み合わせていて、これまで**サーマルリサイクル**のみしか行われていなかった。
- **再生されたプラスチック**は**コンテナやパレットなどの素材**として利用される予定。

(出典：『資源新報』2022年9月2日)

進む循環経済化：事例4

- サントリーは、UACJと東洋製罐と協働で「ザ・プレミアム・モルツCO2削減缶」などを販売。
- 商品設計から輸送、消費後のリサイクルまで、ライフサイクルでの環境負荷低減を目指し、資源循環かつ脱カーボン社会の実現を目指す。
- 世界初の100%リサイクルのアルミ材を利用した缶を数量限定で使う。

(『資源新報』2022年9月5日)

進む循環経済化：事例5

- **星野リゾート**、国内の全施設に**歯ブラシの回収・リサイクル**を導入。
- 年間、**100万本以上の歯ブラシ**を回収・リサイクル。
- 回収後のリサイクルは、**昭和刷子、JTB商事の協力**を得て実施する。
- **再生プラスチック**は**歯ブラシに利用**、ほぼ水平リサイクルが実現することになる。

進む循環経済化：事例 6

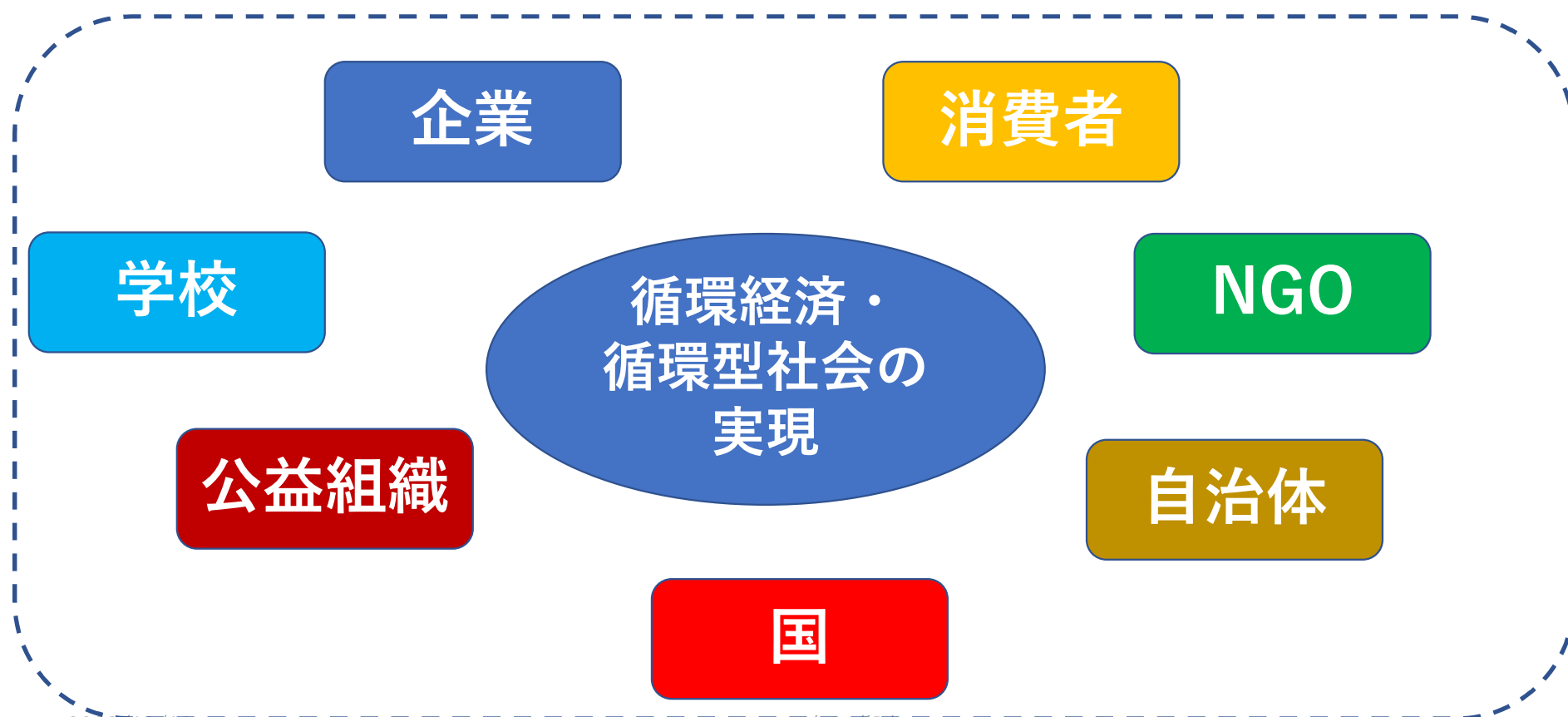
- 先進的発想で循環経済のコンセプトを早くから作り上げ、実践していた**リコー**。
- **コミットサークル**という基本概念のもと、次の4つの行動指針に基づいて循環経済を実践してきた。

- (1) ライフサイクル視点での環境負荷の把握と削減。
- (2) より環境負荷の小さいリユース・リサイクルの実践。
- (3) 循環型ビジネスモデルの確立。
- (4) ステークホルダーとのパートナーシップ。

循環型ビジネスの要点

- **公益（社会益）実現の発想**：ビジネスの目標は当然私益（利益）であるが、同時に**公益（社会益）の実現**を目指すことが重要。
- **ライフサイクルでの環境負荷削減の発想**：製品の設計・計画段階から、資源・素材の獲得⇒生産⇒流通⇒販売⇒使用済製品の回収・収集運搬⇒リユース・リサイクル・処理の**全生産物連鎖での環境負荷の削減**を目指すことが重要。
- **連携協力（パートナーシップ）の発想**：1つの企業だけではなく、**当該企業の関わりのあるすべての企業・組織と連携協力**して環境負荷の削減・循環型ビジネスの実現を目指すことが重要。

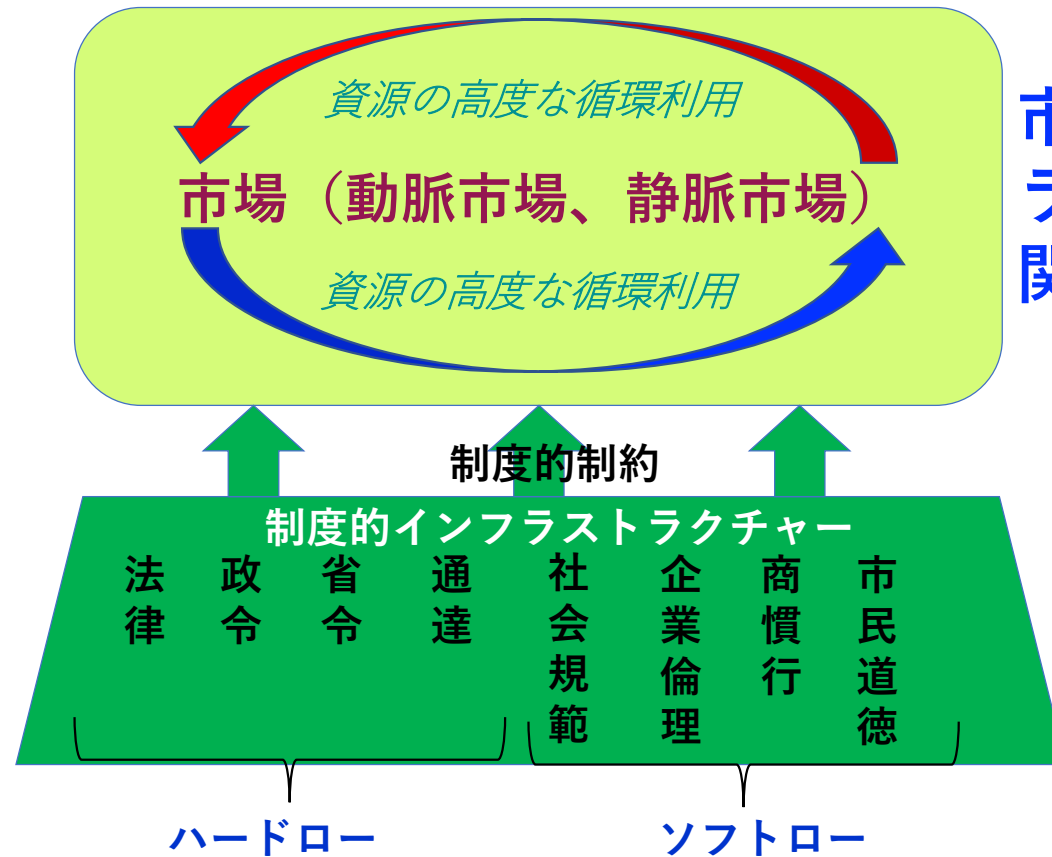
パートナーシップの重要性



パートナーシップの循環経済を作るには

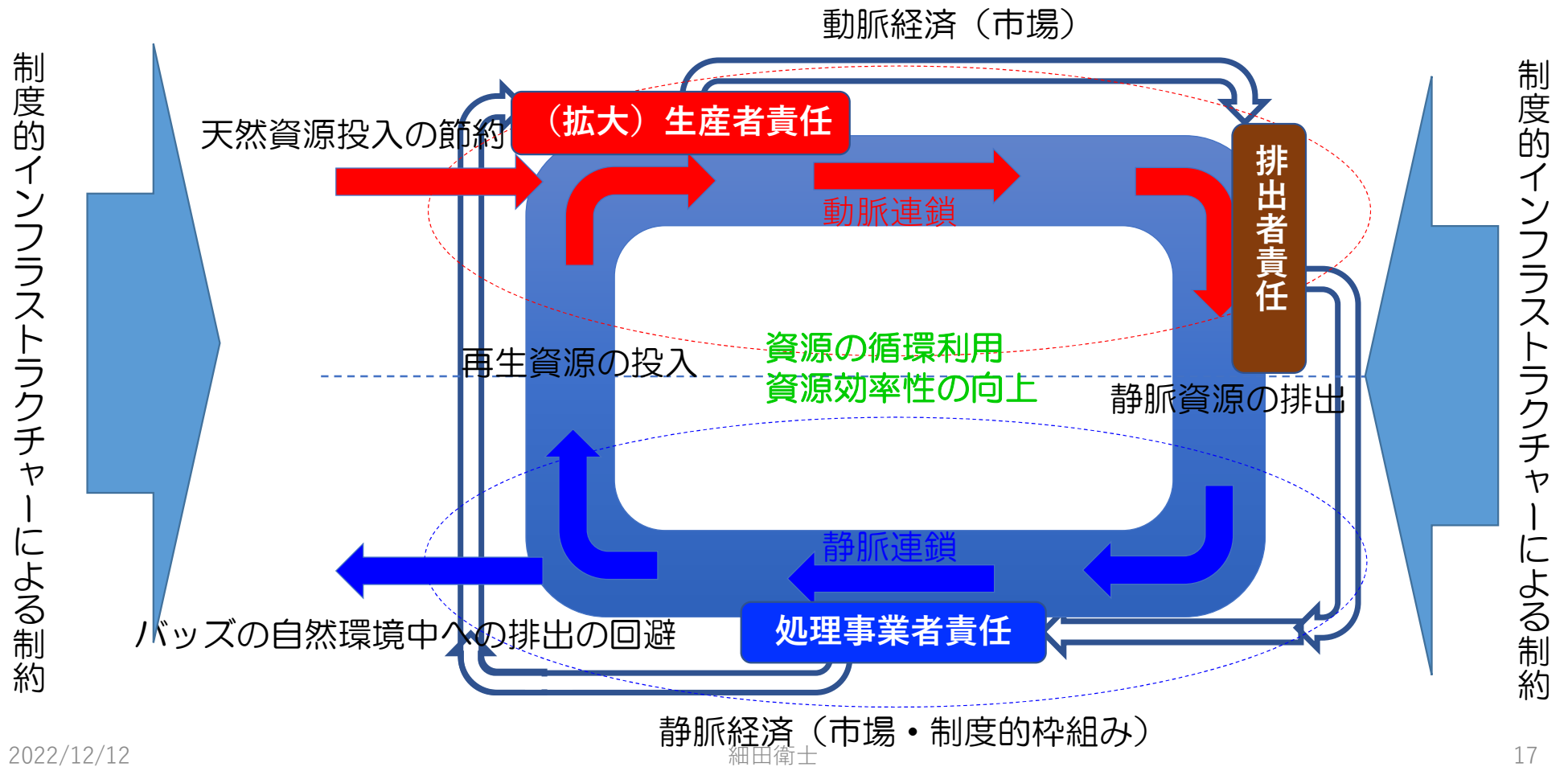
- 市場経済は重要だが、循環経済構築を**市場経済のメカニズム**のみに任せておくことはできない。
- 市場経済メカニズムの基本は、**私益の追求**。
- **ビジネスの場で公益（社会益）の追求が実現可能**になるためには、何らかの**制度的インフラストラクチャー**が必要。
- 現在、**プラスチック資源循環**のためにビジネスが動き始めた背景には、**プラスチック資源循環促進法の成立・施行**がある。

制度的インフラストラクチャー

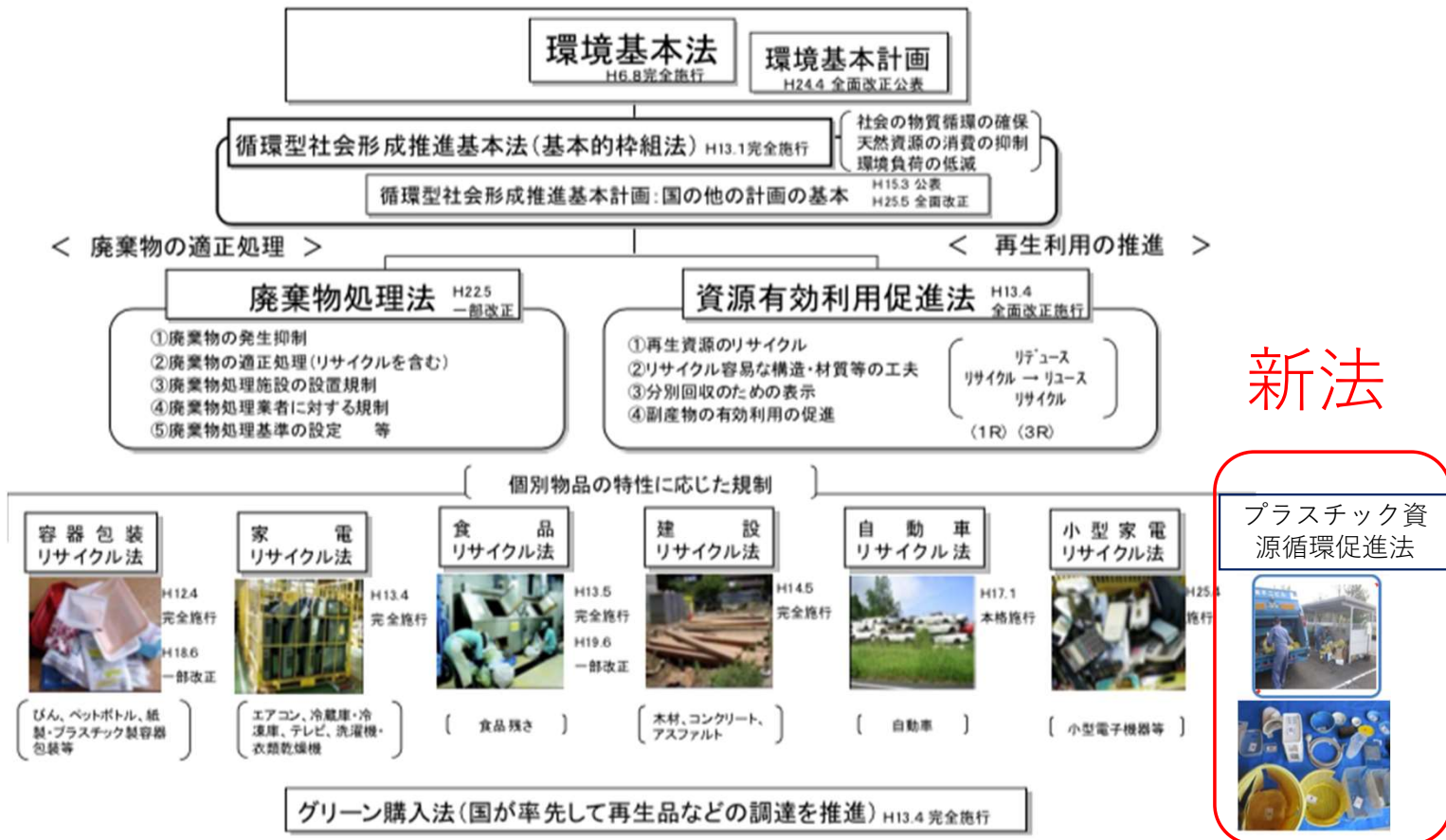


市場と制度的インフラストラクチャーの関係性が重要

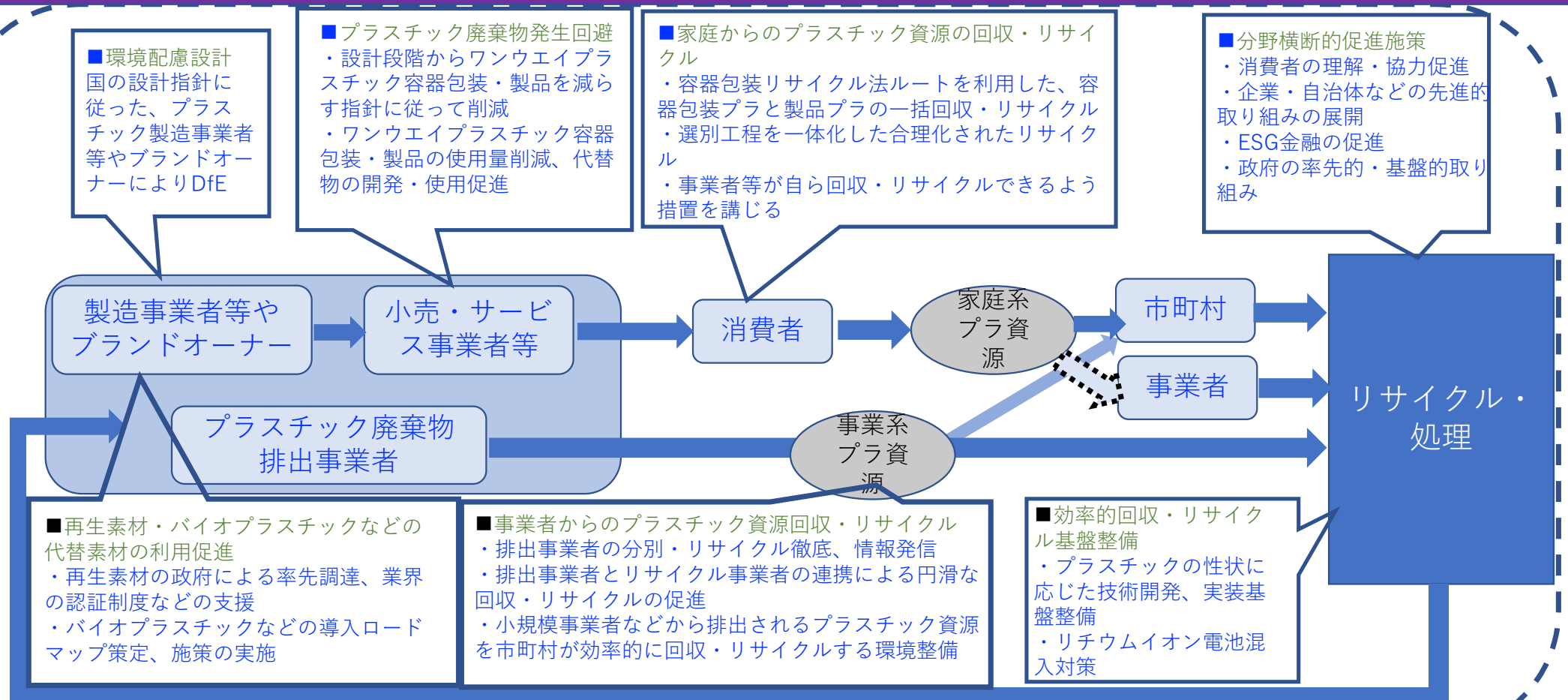
生産物連鎖制御：3つの責任のカプリング



資源循環法体系



プラスチック資源循環促進法の生産物連鎖制御



循環型社会と循環経済（1）

- 『**循環経済ビジョン1999**』を除くと、日本は、「**循環経済**」ではなく「**循環型社会**」という用語を用いてきた。
- EUの『**循環経済パッケージ**』を初めとする「循環経済」の概念では、**経済の面が強調**されているが、日本の「循環型社会」の概念では、経済の面はそれほど強調されていない。
- EUの「循環経済」の概念では、**環境・資源と経済のウインウイン**が目指されている。
- しかし、**環境・資源と経済のウインウイン**は「**言うは易く行うは難し**」である。

循環型社会と循環経済（2）

循環型社会

資源の高度な循環利用
拡大生産者責任
地域社会の貢献（地域循環）
市民参加の重要性

循環経済

資源の高度な循環利用
拡大生産者責任
環境・資源と経済のウィンウィン
新たなる経済成長

この2つの
概念の相違が
見られる。

環境・資源と経済のウィンウィンの難しさ

- **生産構造を循環型**に変えるのはそう難しくないかもしれない。
⇒現にそのような方向に動いている。
- しかし、**マクロ経済全体で需要を低環境負荷型・循環型に変える**のはそう簡単ではない。
- 実は、**消費スタイルは、モノからコト**に変わっていて、このトレンドを押さえれば、**低環境負荷型・循環型需要**を創出できるかもしれない。
- **制度的インフラストラクチャー**を相当うまく作り込む必要がある。

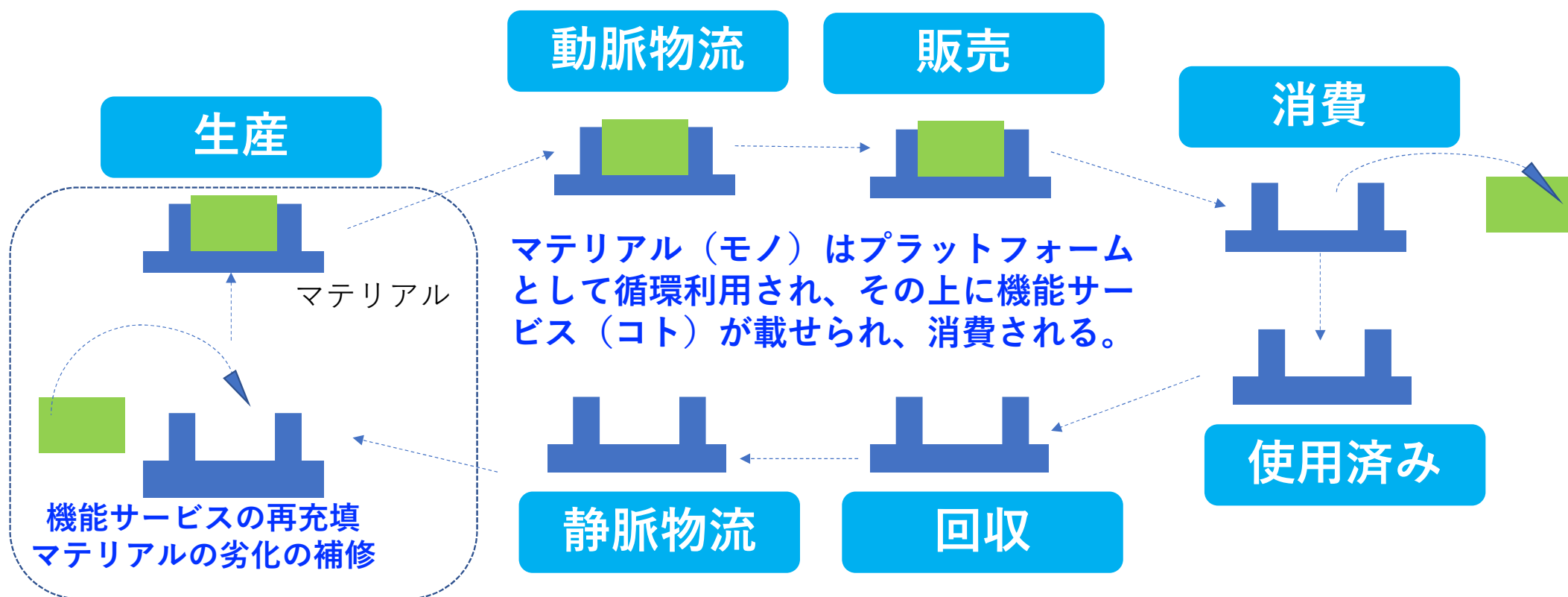
クラウドイングアウトの可能性

- 低環境負荷型・資源循環型の需要が創出されたとしても、それが**従来型の需要を減殺**してしまったら、**総需要**は増えない。
- すなわち、ある種の需要が他の需要を減殺してしまうという、いわゆる**クラウドイングアウトの起きる可能性**がある。
- であるならなおさら、**低環境負荷型・資源循環型の需要が成長**する可能性は大きくない。
- これが、**循環経済についてバラ色の絵を描いてはいけないという理由**。
- **循環経済に至る道も門も狭い**。

循環経済の道を着実に歩むこと

- しかし悲観的になる必要はない。
- 要点は、**パートナーシップ**によって知識と知恵を共有することによって、**モノよりもコトに対する支払意思を顕在化**させることが重要。
- コトに対する支払意思が実現し、**付加価値の生産に貢献**することが不可欠。
- つまり、**みえないもの（環境要素も含む）に対する支払意思を市場での付加価値として実現**することが求められる。

素材の高付加価値化と循環利用



おわりに

- **循環型ビジネスの動き**は沢山出てきている。
- それらの**知識と知恵を共有**し、つむぎ合わせることによって、**資源の高度な循環利用を実現**できる。
- **企業、国・自治体、公益組織、学校、消費者などがパートナーシップを形成**することによって、循環経済、そして循環型社会を構築する必要がある。
- **そこへの道は決してバラ色ではなく、門も狭いが、入れないことはない。**
- 重要なことは、**市場経済メカニズムを利用しつつも、パートナーシップによって狭い道から入ること！**

ご清聴有り難うございました！

Tomorrow is another day.

(映画『風と共に去りぬ』より)